

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表
《嶺北地域：第3四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<嶺北地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>1-1 れいほくブランドの園芸産地の確立 (れいほく八菜)</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」のブランド化に向けた取組のレベルアップを行う。</p>	<p>◆「れいほく八菜」生産者の人材発掘及び育成と「れいほく八菜」の生産技術の高度化のために必要な事項</p> <p>1 農業担い手の発掘・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業研修の充実 ・新規就農者等の経営安定に向けた支援 <p>◆コンサルテーションによる経営改善</p> <p>2 基幹品目の栽培確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三色ピーマン ・米ナス ・シントウ <p>3 補完品目の栽培確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノアレタス 	<p>農業担い手の発掘・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生受け入れ農家選定(土佐町 1件) ・「れいほく未来」(10月より農業研修事業開始) ・指導農業士(大豊町:2名 10月認定) ・認定就農者(本山市:1名) ・コンサルテーションの実施 <p>2. 基幹品目の栽培確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三色ピーマン=実証ほ(戦略品目等技術事業)の設置・調査:1ヶ所 ・実証ほ(青枯病抵抗性台木)の設置:1ヶ所、現地検討会:4回 ・米なす=現地検討会:4回、反省会1回 ・実証ほ(昇温抑制実証ほ)の設置・調査:1ヶ所 ・シントウ=新規生産者掘り起し・現地検討会:2回 ・現地検討会:3回、視察研修:1回 ・実証ほ(青枯病抵抗性台木)の設置:1ヶ所 <p>3. 補完品目の栽培確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノアレタス=実証ほ(葉先枯れ症対策)設置の了解:1ヶ所、反省会:1回
<p>1-2 れいほくブランドの園芸産地の確立 (れいほく八花)</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」のブランド化に向けた取組のレベルアップを行う。</p>	<p>◆ノーブル由来の新系統の品種登録に向けた支援</p> <p>◆ノーブルの高品質・安定生産技術の確立</p> <p>◆ブランド化に向けたPR活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理巡回指導の実施(13回) ・ノーブル由来の新系統の特性調査(6回) ・市場視察調査(1回)
<p>1-3 れいほくブランドの園芸産地の確立 (有利販売)</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」のブランド化に向けた取組のレベルアップを行う。</p>	<p>◆れいほくブランドによる有利販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売拠点の充実 ・新たな販売方法の確立 ・消費者交流活動の推進 <p>◆出荷農産物や出荷者の確保、充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培履歴の徹底 ・スムーズな直販運営 ・集出荷体制の構築 	<p>○販売拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売促進企画会議(11回) ・コープかがわとのうち合わせ(2回) ・コープかがわ販売促進活動(店頭販売3回、出前授業、八祭・料理教室、消費者産地交流会、香川県のイベントでの販促) ・コープかがわ商品委員会での八菜PR(4回) <p>△販売体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販ビジネス実務担当者会(5回) ・栽培技術指導等(3回) ・研修会(3回) ・とさ千里での販売促進(8回)
<p>2 ユズ産地の確立と加工拠点づくり</p> <p>《大豊町、本山市、土佐町》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、ユズのブランド化に向けた取組のレベルアップを行うとともに、ユズの加工拠点づくりに向けた取組を進める。</p>	<p>ユズ果汁・加工品の販売促進</p> <p>安定したユズ生産</p> <p>収穫作業の軽量化</p> <p>青果出荷の増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新加工場の稼働 ・海外への加工品販促活動の実施(3回) ・高知フェアへの参加 ・国内、県内商談会への参加(2回) ・ユズの状況調査(7回) ・柚子部会へ青果出荷の要請(1回)
<p>3-1 集落営農で元気な地域づくり (吉延地区)</p> <p>集落営農組織が、目標とする営農計画及び集落営農ビジョンの実現に向けて、集落内の農地や機械・施設、労働力などを活用した地域営農を展開することで、集落の担い手を確保し継続性の確保できる集落営農の仕組みづくりをする。</p>	<p>集落の農地と労力を活用した、担い手育成・確保のために、特に取り組みが必要な事項</p> <p>◆リーダー育成及び合意形成機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より参画意識の高まる動機付け、合意形成手法の実施 <p>◆生産基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産コスト低減と効率化につながる生産基盤整備(共同利用機械) ・ライスセンターの計画的稼働 ・有望品目(園芸品目)栽培技術等支援 	<p>◆合意形成機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関連絡会 本山市9回 ・推進協議会 1回 ・推進委員会 2回 ・意見交換会等への参加 4回 <p>◆営農計画及び集落営農ビジョンの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> □作業受託・ライスセンターの計画稼働 稼働面積 田植10ha □園芸品目等の導入と定着 ショウガ33a・水稲(ブランド米)8a共同栽培 □交流活動 運営企画会
<p>3-2 集落営農で元気な地域づくり (伊勢川地区)</p> <p>集落営農組織が、目標とする営農計画及び集落営農ビジョンの実現に向けて、集落内の農地や機械・施設、労働力などを活用した地域営農を展開することで、集落の担い手を確保し継続性の確保できる集落営農の仕組みづくりをする。</p>	<p>集落の農地と労力を活用した、担い手育成・確保のために、特に取り組みが必要な事項</p> <p>◆リーダー育成及び合意形成機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より参画意識の高まる動機付け、合意形成手法の実施 <p>◆生産基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産コスト低減と効率化につながる生産基盤整備(共同利用機械) ・受託部門の計画的稼働 ・有望品目の導入と栽培技術等支援 ・高齢者や女性などが活躍し所得向上につながる直販活動の推進、農産物に付加価値を付けた農産加工活動の推進 	<p>◆合意形成機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営農組合総会運営助言(決算資料作成他)3回 ・営農組合総会1回 地区交流会1回 ・関係機関連絡会 土佐町5回、土佐町担当者個別協議 推進協議会1回 ・集落営農推進委員会4回・研修会1回(3名)、視察研修1回(14名) ・全体会 1回 <p>◆営農計画及び集落営農ビジョンの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> □受託部会の計画稼働 ・運営助言2回 □園芸品目等の導入と定着 ・助言・巡回指導(栽培管理技術、品目選定・計画作成ほか)16回 □直販出荷品の充実と付加価値化 ・栽培講習2回 巡回2回 ・加工指導3回 出荷検討会2回

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
<ul style="list-style-type: none"> ・シントウの生産者の増(79名→85名) ・新規就農者数:14名(H22.6/2~H23.6/1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・れいほく八菜の販売額=1億1740万円(8月末現在) ●米ナス=収量:141,117kg(10月末現在)、前年同期収量:131,489kg、前年比107.3%、販売金額:53,779,052円、進捗率116% 	<ul style="list-style-type: none"> ◆れいほく八菜の販売額 3.5億円
<ul style="list-style-type: none"> ・巡回による病害虫早期防除と土壌分析による施肥量設定を指導できた。 ・ノーブルの評価を確認した。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆れいほく八花の販売額 1.2億円
<ul style="list-style-type: none"> ・コープかがわ 観音寺店に、れいほくコーナー設置(合計7店舗) ○販売拠点づくり チラシによる共同購入定着 		
<ul style="list-style-type: none"> ユズ加工品11月末販売額 26,455万円(前年対比 94%) オランダヘユズ果汁50QBテナー輸出 ユズの出荷量 750t(H22 745t) 		<ul style="list-style-type: none"> ユズ加工品の販売額 4.5億円
<ul style="list-style-type: none"> ◆合意形成機能の強化 推進委員会参加率100% (夫婦参加増) ◆営農計画及び集落営農ビジョンの実践 □作業受託・ライスセンターの計画稼働 水稲作業受託 ※受託額は終了時確認 □園芸品目等の導入と定着 栽培管理、収穫(ショウガ・水稲)※販売額は作終了後精算 □交流活動 ・消費者交流 場づくり2回(田植・収穫体験) ・棚田コンサート1回 		<ul style="list-style-type: none"> ◆こうち型集落営農における担い手組織の農産物販売額 1,300万
<ul style="list-style-type: none"> ◆リーダー育成及び合意形成機能の強化 ・参加状況 役員会参加率70% ・新部会設置により4部会体制となる。 ◆営農計画及び集落営農ビジョンの実践 □受託部会の計画稼働 ・水稲作業受託 畦塗8.79ha 田植6.16ha 共同散布1.8ha □園芸品目等の導入と定着 ・栽培管理、収穫(ニンニク・ソバ)※販売額は後日精算 □直販出荷品の充実と付加価値化 ・梅収穫、加工※加工量、販売額は後日精算 		

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<嶺北地域>

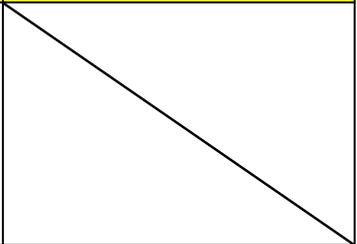
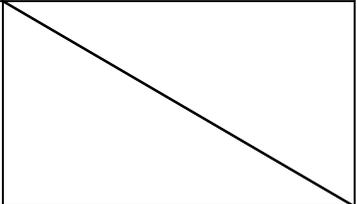
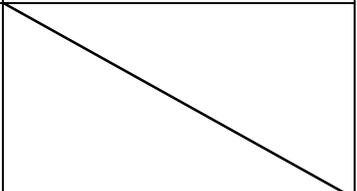
項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>3-3 集落営農で元気な地域づくり(一般)</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>集落の農地と労力を活用した、担い手育成・確保のために、特に取り組みが必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆リーダー育成及び合意形成機能の強化 ◆関係機関との推進体制整備 ◆集落営農の推進及び組織化を志向する集落の掘り起こし ◆集落営農組織の育成 ◆リーダー育成、計画作成、集落営農推進意識の高まる動機付け及び合意形成手法の実施 ◆集落営農組織の継続性の確保 ◆集落営農活動のステップアップを志向する集落の掘り起こし 	<ul style="list-style-type: none"> ◆合意形成機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関連絡会 本山市12回 大豊町5回 土佐町5回 ・担い手育成総合支援協議会総会 全4町村 ・集落営農研修会1回(集落営農拠点ビジネス支援事業 実施主体 本山市) ・取組事例視察2回(集落営農拠点ビジネス支援事業 実施主体 本山市・土佐町) ◆集落営農組織の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・集落営農説明会 大豊町(農業委員会委員、梶ヶ内集落)、本山市(農業委員会委員・本山市地区) ・土佐町(協定締結集落役員、生活改善グループ協議会・白石地区) JA職員学習会(全職員) ・取り組み意向アンケート調査 (同上のうち)5団体 ◆集落営農組織の継続性の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・対象集落の選定、ステップアップ活動計画作成支援 ・集落座談会 穴内あけぼの会5回 ・機械整備事業申請(集落営農・拠点ビジネス支援事業 10月設置) 溜井長和集落営農組合
<p>4 米粉を活用したビジネスの展開</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>米粉の製造・販売や米粉加工商品の開発・販売、関西圏をターゲットにした、安心・安全な食の提供による地産外販など、米粉を活用したビジネスを展開し、新たな雇用の創出につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇原料稲の品質安定と収量の確保 ◇「れいほく未来」での販売開始に伴う営業力の強化 ◇とさ千里を通じた大消費地での使用機会の増大 ◇米粉の里構想の推進 ◆米粉の里活性化協議会の連携強化 ◆魅力あるイベント等の企画運営 	<ul style="list-style-type: none"> ○米粉料理教室の開催(4回) ○米粉の里活性化協議会の開催(2回) ○イベントでの米粉料理試食宣伝(5回) ○イベントでの米粉商品販売(5回)
<p>5 米のブランド化による稲作農業の展開</p> <p>《本山市》</p> <p>消費者が求めるブランド力のある米の生産により、価格のアップを図り、後継者が将来に展望を持つことができる稲作農業を確立するため、良好な水田環境など地域の特性を付加価値とすることや、室戸海洋深層水を栽培過程で使用することによる新しいブランド米の構築に向けた取組を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ブランド米の生産増、販路拡大 ◆美味しい米づくりの栽培法の検証、品質の高位平準化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブランド米栽培基準の徹底 ○機械等の導入(産業振興総合補助金) ○ブランド化推進協議会の開催(5回) ○コンテストへの参加
<p>6-1 (株)大豊ゆとりファームを核とする基石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組(遊休農地活用)</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、多角的に展開する拠点型ビジネスの仕組みづくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆借入農地を活用した経営安定化 ◆作業受託による農地保全の推進 ◆野菜、菓草及び山菜の取組拡大 	<p>農地借入での野菜等の栽培</p> <p>作業受託による耕作放棄地対策の推進</p> <p>クールベジタブル(独自のカーボンオフセット)など付加価値の向上の取組</p>
<p>6-2 (株)大豊ゆとりファームを核とする基石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組(地産地消)</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、多角的に展開する拠点型ビジネスの仕組みづくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆野菜等の地産地消ビジネスの展開 ・町内外の販売拠点の確保 ・生産者の意欲向上(情報提供・研修会等) ・集荷ルートの充実 	<p>「お山の市場」開催場所を高知市内に移転 9回開催済み</p> <p>加工品検討会、直販所等視察研修会の開催</p> <p>1ルート追加(川井ルート)</p>
<p>6-3 (株)大豊ゆとりファームを核とする基石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組(加工品づくり)</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、多角的に展開する拠点型ビジネスの仕組みづくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆加工品を含めた基石茶の販路拡大 ◆基石茶を使った新製品の開発 ◆試作品の検証と販売先確保 	<p>販促活動 延べ 18日(12月末)</p> <p>カートカンによる基石茶の味の浸透を図る 製作本数12万本(7月末販売開始、12月末追加製造)</p> <p>大豊町による町単独補助制度の導入</p> <p>産業振興アドバイザーの派遣</p>
<p>6-4 (株)大豊ゆとりファームを核とする基石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組(ふるさと支援)</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、多角的に展開する拠点型ビジネスの仕組みづくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆整備された体験交流拠点施設の活動量拡大 ◆基石茶の製法伝承、担い手育成 	<p>モニターツアーの開催 合計7回</p> <p>ふるさと応援団加入見込み 128名</p> <p>基石茶製造研修の継続実施 昨年度からの継続作業員1名</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
<ul style="list-style-type: none"> ◆合意形成機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・4町村(本山市・大豊町・土佐町・大川村)の地域担い手育成総合支援協議会年間事業に集落営農の取組を計画 ◆集落営農組織の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・育成ステージ(1以上)ステップアップ対象集落の選定 <ul style="list-style-type: none"> 大豊町 2集落(※予定 岩原・西梶ヶ内) 土佐町 3集落(東石原・立割・白石) 本山市 1集落(本山市地区) ・集落営農組織 <ul style="list-style-type: none"> 新規 1(大石営農組合) ◆集落営農組織の継続性の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・大豊町 穴内あけぼの会 米ブランド化計画作成(あなない棚田米) ・土佐町 溜井長和集落営農組合 米ブランドの生産推進(雲海の光) 	集落営農組織数 8組織	◆集落営農組織及び準じる組織(累計) 8組織
<ul style="list-style-type: none"> ・米粉加工品販売額(4~10月実績):約170万円 ・米粉売り上げ(4~10月実績):約1,200万円 ・米粉パン売り上げ(4~10月実績):約1,750万円 ・米粉製粉実績(4~9月):39,335.9kg(原料白米) ・米粉の里構想の実現に向け、米粉の活用方法や加工品の紹介により米粉利用を広く呼びかけるため11月の食イベントに参加した。 		◆米粉等の販売額 7,000万円
<ul style="list-style-type: none"> ○栽培技術および意識の統一 <ul style="list-style-type: none"> 生産者は増加し、ブランド米生産に対する意識と栽培技術の統一化が図られた。 H22 25戸 2組織 20ha→H23 40戸 2組織 30ha ○米食味分析コンクール環境王国部門で金賞を受賞した 		ブランド米の販売額 : 7,500万円
<ul style="list-style-type: none"> ・農作業受託 <ul style="list-style-type: none"> 耕起 537a(26件) ・農地借入 <ul style="list-style-type: none"> 野菜 34a ゼンマイ 53a 銀不老 6a 		
<ul style="list-style-type: none"> 生産者の知識向上、連携の強化が図られた 出荷農家の増加(川井ルート:1戸→4戸に増加) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・カートカン販売・販促:約5.5万本(12月末) 		碓石茶生産組合販売額 1.0億円
<ul style="list-style-type: none"> ツアー参加者 延べ70人 研修開始から4年連続の作業従事者0名、3年連続2名 	<ul style="list-style-type: none"> 体験交流拠点としてのノウハウをモニターツアーの積み重ねを行うことで、運営能力が増大した 熟練技能者の養成が図られた 	

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞
<p>7 JA出資型法人による地域活性化の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>農業者の減少に伴い農業生産の維持や担い手の確保、耕作放棄地の解消などが課題となっている。これらの課題解決を図り農業所得の向上と就業機会を創出するため、JA土佐れいほくが地域農業の新たな担い手としてJA出資型法人を設立し、農作業受託や遊休農地等を活用した農業経営、就農希望者の研修事業などを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> JA米の有利販売(ブランド米)検討 米粉の販路拡大 次年度、研修生受入れの体制づくり 農作業受委託の基盤づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業経営事業に係る作物(トウガラシ14a、3色ピーマン21a、スナップエンドウ4a、新規需要米72a)の栽培開始。 △作業受託は田植え(1ha)収穫(0.6ha)、耕作放棄地対策(50a)の実施。 ・「農の雇用事業」の導入 □研修事業開始 ・産業振興アドバイザー導入
<p>8 肉用牛飼育の競争力の確保による肉用牛産業の再興</p> <p>《本山町、土佐町、大豊町》</p> <p>肉用牛産業の再興を図り、土佐褐毛和種の産地としての活力を取り戻すため飼養者の競争力を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公営牧場の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・放牧地造成のための土地の確保 ◆褐毛和種子牛価格の安定 	<p>公営牧場の適地の検討</p>
<p>9 大川黒牛の再興による地域の活性化</p> <p>《大川村》</p> <p>大川村の基幹産業である肉用牛生産(大川黒牛)の再興を図り、地域の活性化につなげるため、地域内での一貫生産体制の堅持に向けた取り組みを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3セクターの経営安定 ◆生産から販売のシステムづくり ◆繁殖牛の導入(財源の確保) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)むらびと本舗が和牛の一貫経営の事業開始 ・増頭計画の検討
<p>10 土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開</p> <p>《大川村》</p> <p>土佐はちきん地鶏の生産拠点として事業の展開を図り、新しい地場産業として発展させ、雇用の確保、農家所得の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆10万羽生産体制の施設整備及び販売体制の構築及びむらびと本舗の経営安定化 ◆販路開拓、加工品開発 	<p>種鶏の導入計画作成 土佐はちきん地鶏拠点(生産～販売)づくり推進事業に係る検討会(1回) 産業振興アドバイザーの派遣(5回)</p>
<p>11 間伐推進と木材増産による林業振興</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>嶺北地域の豊かな森林資源を活かし、生産者の経営の安定化を図るとともに、「新生産システム」により、地域に計画されている大型製材工場への木材の安定供給に寄与するため、作業道を中心とした計画的な路網整備と間伐の推進による木材の増産に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 森の工場の推進 * 林業事業体の育成 * 林業の担い手の育成・確保 * 放置林の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の開催(1回)
<p>12 「れいほくスケルトン」の性能向上及び販売促進</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>住宅の基本構造体をキット商品化した「れいほくスケルトン」の性能向上、販売促進に向けた取組により、嶺北材の販路拡大を図る。</p>	<p>嶺北材の販売拡大</p> <p>嶺北材の販売方法の見直し 邸別販売の継続検討(部材供給体制、営業・販売体制等の構築)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動(3回) ・嶺北材の供給体制システム打合せ会(2回)
<p>13 県産材の地域における率先利用</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>地域内で生産された木材や製材品は、大部分が県外へ出荷されていることから、地域内で率先的に利用することにより、地産地消を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設での地域材の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐町庁舎建築工事発注(8/24) ・木の香るまちづくり推進事業の3件が交付決定(本山町、土佐町、大川村) ・木の香るまちづくり推進事業 四国銀行本山支店 案内板兼休憩所建築工事発注(本山町) 大川村山村開発センター玄関ロビー内装工事発注(大川村)
<p>14 木工製品の製造・販売による地域の活性化</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>人にやさしい木工製品の企画・製造・販売を促進し、嶺北産材の良さや手づくりの良さをPRにより、地域の新たな特色ある取組に育て、地域の活性化に結びつける。</p>	<p>「ばうむ合同会社関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机・椅子の販売強化 ・机・椅子の規格変更に伴う強度試験結果 	<p>「ばうむ合同会社関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業組合等活路開拓事業(全国中央会助成事業)へ応募 ・中小企業組合等活路開拓事業による委員会(打合せ)の実施……4回 <p>「大豊町森林組合関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの作成
<p>15 特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>小規模・分散化している生産者を集約し、地域内の豊富な特用林産物(シキミ、サカキ)を収益につなげるため、地区単位での生産体制と出荷体制の整備による拠点づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者への出荷に対する負担 ・集出荷施設の整備 ・町村の協力及び支援 ・出荷量に対する生産者との調整 ・出荷体制に対する意見調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者との打合せ……………12回 ・本山町農業公社との協議……………1回 ・共同出荷に関する関係者との打合せ開催……………2回 ・生産者に対する勉強会の開催……………1回 ・実行支援チーム会の開催……………1回 ・先進地視察の開催……………2回

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	目標(H23)
・8月雇用(「農の雇用事業」) 1名 □受け入れ研修生 1名 ○農業経営事業に係る作物(販売額:トウガラシ160万円、3色ピーマン303万円、花卉類21万円(H23.11.10現在))		
		H23年販売額 2.3億
繁殖雌牛の保更新 自家更新:3頭		H23販売額 1億円
出荷羽数:34,320羽(10月末現在)		H23年の出荷 10万羽
・森の工場の拡大1(大川村)		・間伐の実施面積 8,000 ha (H19~23計) ・木材の素材生産量 8.4万 m ³
		◆190棟(H19~H23累計)
・本山町吉野に世帯用木造住宅2棟完成		
「ばうむ合同会社関係」 ・中小企業組合等活路開拓事業(全国中央会助成事業)の交付決定 ・中小企業組合等活路開拓事業により、机・椅子の試作品の作成・・・3回 ・ノベルティーの新たな販売アイテムの開発		机・椅子の販売数760セット(H19~23計)
・共同出荷(テスト)の実施・・・・・・2,013束		

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<嶺北地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>16 大型製材工場の誘致による地域材の利用の促進</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>大型製材工場の誘致により地域材の利用を促進し、林業従事者の増加や所得の向上、事業体による雇用の促進へとつなげる。</p>	<p>誘致に向け必要となる原木量の確保並びに供給体制の整備及び対策 (原木をどのように確保していくのか)</p>	<p>・各町村間伐推進連絡会の連携開催(1回) (地域アクションプラン「間伐推進と木材増産による林業振興産」との連携) 町村単位での個別開催により、現状と課題を共有化する。 ・誘致先企業との協議(3回) ・林業振興・環境部内に原木供給プロジェクトチームでの協議(2回)</p>
<p>17 木質バイオマス利用拡大の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>嶺北地域に民間事業体による加工施設を設置すること等により、木質バイオマスの利用拡大と林業の活性化を図る。</p>	<p>早期稼働に向けた取組</p>	<p>○林地残材加工施設(土佐町) 補助金交付決定(7月12日) □木質バイオマスボイラー施設(本山町) 補助金交付決定(8月3日)</p>
<p>18 地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>地域産品を販売するポータルサイトを構築し、ネットビジネスのできない商業者にその手段を提供することにより、ポータルサイト運営者や商業者の所得の向上、地域の情報発信に結びつける。</p>	<p>・新たな運営主体((株)れいほく未来)の事業運営体制の整備(販売手数料の検討等)</p> <p>・販売量の増のための多角的な取り組み 掲載商品の充実 セット商品等新たな掲載商品の開発 参加事業者・商品の増 目玉商品の開発 アクセス数増加の取組 など</p>	<p>・新しい運営主体((株)れいほく未来)による事業開始 ・サイトの広報活動(月刊誌掲載、FMでのCM)</p>
<p>19 土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外販の拠点づくり</p> <p>《土佐町》</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)を関西圏におけるアンテナショップとして、米粉を活用したビジネスの展開や、「れいほく八菜」をはじめとする嶺北地域や高知県の産品を取り扱う地産外販の拠点となるように取組を進める。</p>	<p>・店舗の運営状況(売上の確保・経営収支の向上)を見極めながら、嶺北地域をはじめとする高知県産品のラインアップの充実を図り、関西における県産品販売の拠点としての地位を再構築する。</p>	<p>・土佐町が「とさ千里」への集荷を促進する補助制度を創設(6月補正) ・「まるごと高知」「てんこす」の商品販売情報提供。 ・「てんこす」との連携について協議する機会を設定。 ・県大阪事務所での「木曜市」毎週開催。 ・産業振興アドバイザーの導入 ・催事の開催</p>
<p>20 嶺北地域の連携による交流人口の拡大</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>観光を軸として、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色のある取組などを横断的につなぐ場と仕組みをつくることにより、「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信により、交流人口の拡大を目指す。</p>	<p>◆4町村連携の仕組みづくり ◆嶺北観光連携事業のビジネス化(実施主体、組織、事業内容等)</p>	<p>■高知県観光アドバイザーとの意見交換(1回) ■龍馬ふるさと博セールスキャラバン(3回) ■観光ガイド研修(4回) ■旅行エージェントを招聘し大座礼山等視察 ■旅行エージェントを招聘し情報交換会 ■土佐の豊穡祭in嶺北</p>
<p>21 濁酒等を活用した地域資源との連携による地域の活性化</p> <p>《大豊町、本山町》</p> <p>地域の特産品となる濁酒の製造・販売と地域の観光資源との連携によって、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。</p>	<p>(共通) ・生産農家(農家民宿又は農家レストラン)の拡充 ・支援策(設備整備、販促活動等)の検討 ・交流施策との連携によるPR及び販促</p> <p>(大豊町) ・協議会による販促活動の継続</p> <p>(本山町) ・免許申請への支援 ・販促活動の実施</p>	<p>(大豊町) ・濁酒協会による販促活動の継続 販促イベント参加11日 ・新規取組希望者へのサポート</p> <p>(本山町) ・新規取組希望者へのサポート ・新規取組希望者3名が、製造講習会を受講</p>
<p>22 白髪山、工石山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組</p> <p>《本山町》</p> <p>白髪山、工石山(奥工石)の有する豊かな自然、貴重な地質や森林資源などを活かした取組や嶺北地域の他の資源との連携も視野に入れた取組を進め、交流人口の拡大を目指す。</p>	<p>◆仕組みづくり(推進体制、事業内容)</p> <p>◆受入体制の整備(ソフト)</p> <p>◆他の嶺北地域資源との連携</p>	<p>○推進組織について ・関係者との協議 ○事業内容について ・ガイド養成研修への参加 ・現地調査 ○PR活動 ・旅行者へのPR活動 ○天然記念物について ・天然記念物指定への申請</p>
<p>23 早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組</p> <p>早明浦ダムでの釣大会の開催、遊覧船・ウォータースポーツなど湖面を活用したレジャープラン等の実施、また嶺北地域内の他資源とも連携して取り組む等、早明浦ダムを核とした交流人口の拡大を目指す。</p>	<p>◆推進体制・運営形態について関係者間での検討・共通理解 ◆ハード整備(スロープの延伸・駐車場・駐艇場・インフォメーションセンター設置・宿泊施設の改良など) ◆ソフト整備(事業内容・体験メニュー実施・検証・利用料の検討・湖ならではの企画・イベント等の計画的実施・効果的効率的な経営システム・スタッフの育成など) ◆フラックパス規制に関する情報収集 ◆地域一体となって取り組む体制づくり ◆運営体制の構築(行政と民間の役割の明確化) ◆コーディネータ、アドバイザーの確保</p>	<p>◆チャプターさめうらの開催 190名参加 ◆JBTOP50の開催 640名参加 ◆町内小中学校校外学習等への協力 153名参加 ◆体験観光パンフレット「まるごと体験」メニュー掲載 ◆湖面ガイド養成研修の開催 17名参加 ◆カヌー・遊覧船モニター調査実施(2回) 40名 ◆バス釣り大会の開催 40名参加 ◆大川村青年団への協力(であいのきっかけ応援事業) 30名参加 ◆さめうら湖協議会の開催(2回)</p>
<p>24 滞在型市民農園の推進による地域の活性化</p> <p>《本山町》</p> <p>本山町内に滞在型市民農園(クラインガルテン)を整備し、都市部の住民の農業や田舎暮らしへの関心を高めて地域への移住や2地域居住につなげ、産業の活性化・雇用の創出・交流人口の拡大・農業の担い手づくり等による地域の活性化を図る。</p>	<p>◆事業計画の策定(事業内容、推進体制等)</p> <p>◆施設整備の推進(ハード)</p> <p>◆運営体制の検討(ソフト)</p> <p>◆他の嶺北地域資源との連携</p>	<p>○施設整備の推進 ・施設整備に関して関係者との協議 ・用地地権者との協議</p> <p>○運営計画の検討 ・先進事例等の調査(クラインガルテン四万十)</p> <p>○PR活動 ・移住相談会(大阪、東京)への参加</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
・各町村間伐推進連絡会を通じて、関係機関との情報共有(2回) ・銘建工業(株)の大豊町川口南農工団地への進出に関する協定締結		/
◇木質バイオマスボイラー 園芸用ハウスボイラー完成(本山町) 完成(8月31日) □木質バイオマスボイラー 木材乾燥機用ボイラー施設完成(本山町) 完成(10月31日)		/
		・ポータルサイトでの販売額 1,200万円
		土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額 年間1.5億円
・山歩きの商品化決定(1件:24年4月の予定)		公共関連宿泊施設での宿泊者数 10,000人
(大豊町) ・新規小売販売先の開拓1件 (本山町) ・濁酒の生産・販売促進活動の開始		/
○推進組織について ・「本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会」の設立(23年11月)		/
◆イベント参加者数 計1,350名		/
		/